新京日日新聞　夕刊　十二月十九日(木)
發行所 新京日日新聞社
發行人 編輯人 印刷人

關税改正建議
新京商工會議所議員會から
當局に要望の内容(五)

(八)財政上許容し得べき限度に於て満洲産業開發上必要と認むるもの

輸入品關係に於て

一、關帶(税番五二八)

關帶は機械の運轉上必要欠くべからざるものにして満洲國に於ける工業の發展を圖るためには工業製品の生産費を可的低廉ならしむることを必要とするが故に關帶の如き工業品の輸入税は無税となすやう要望す、輸出品關係に於ては

一、甘草(税番)杏仁(税番一〇六)

甘草は満洲特産にて日本に於ける醤油醸造に必要欠くべからざるものにして一方杏仁と共に藥材としても需要多くこれらを原料とせる藥品にて満洲國に輸入さるゝ數量大なるも近年原料高く日本への輸出不振の状態にあれば甘草は現行擔一圓七角二分より舊税率の二角に杏仁は二圓五角七分より七角に改正を要望す

二、馬毛(税番一九〇)山羊毛(税番一七六)山羊絨毛(税番一八八)

獸毛類の中今次の改正に於て緬羊毛のみ無税とせられたるも馬山羊とも満洲國畜産業として之が改良發達は有望視せらるゝが故にその振興の一助として無税とするか若し無税とすること能はざるときは舊税率により馬毛は從價五分山羊毛及山羊絨毛は擔二角八分に引下げを要望す

三、生肉及冷凍肉(税番九)

満洲牛肉は近年種々なる事情に禍されて價格暴騰したるため日本内地及天津青島其他濠洲加奈陀より輸入さるゝ外來肉に比し單價割高となり輸出困難となれり斯くて満洲に於ける牧畜業に影響を與ふること甚大なるのみならず日本の食料問題より見るも重大事なれば無税とするか若し無税とすること能はざれば舊税率五分に引き下ぐることを要望す

四、牛皮馬皮、緬羊皮山羊皮、狗皮其の他の獸皮(一四税番一三三及二五)

以上の獸皮は満洲に於ける牧畜業の旺盛さなるにつれて輸出大いに振興せるも牛皮の如きは濱口牛皮に壓迫され日本其の他諸外國への輸出不振となれり斯くの如きは満洲に於ける牧畜業に重大なる影響を與ふることゝなるが故に今後の改正に於て緬羊毛を無税となしたると同様に無税乃至舊税率(牛皮、馬皮は擔七角七分其の他は從價五分)に引下げを要望す

五、大麻、黄麻苧麻(税番一七七、一七八、一七九)

麻類は満洲の特産品にして麻袋に使用さる以外は日本に輸出せられ麻裏草履その他の原料となるも近年天津麻に壓迫せられ輸出甚だ不振なるを以て斯業の發展を期して現行擔大麻二圓一角二分黄麻一圓一角五分苧麻一圓七角五分を夫々舊税率の大麻五角四分、黄麻三角一分、苧麻從價五分に引下げを要望す

六、雜穀類

小豆(税番四三)綠豆(同四三)
高粱(税番四八)(税番四五)
苞米(税番四九)粟(税番五〇)
白米(税番五一)籾(税番五一)
小麥(税番五三)蕎麥(同四六)
大麻子(同一〇九)小麻子(同一〇七)蘇子(税番一一三)胡麻(税番一一五)

以上の農産物の輸出促進のため輸出税は可及的に引下げを必要とす、小豆、綠豆は日本に於ては南洋産「びるま」の如き代用品に比較して割高のため競爭困難を感じ輸出減退しつゝあり富粱は養鷄飼料として日本に向けらるゝものにして日本は民國十九年の關税改正に於て兩品とも五割の增率となりたるため事業採算を失ふに至れり養鷄業は日本農民の生業として頗る重要視さるゝものなれば満洲國輸出税は無税とすることを必要とす、苞米も日本に於ても養鷄飼料として輸出されその數量は年十二萬キロトン余にして満洲よりの輸入は昭和六年度に約二萬五千キロトンその他は南洋「アルゼンチン」方面より約十萬キロトン輸入さるゝがこれを満洲品に代替するため満洲國輸出税を舊税率の擔一角六分に引下げることを急務なり、粟は朝鮮下層民の常食として年約五十萬キロトンの需要ありしが近年は満洲國輸出税は高率なるため朝鮮内にて栽培の計畫あり且輸出數量も激減せり朝鮮に於ける細民の食料なればこれを救濟する意味に於て又輸出を促進せしむるため舊税率の擔八分に引下げを要望す、白米は今後満洲の水田經營が旺盛となりその需要先を日本に求むることゝ必然にして日本の外米輸入を阻止するため満洲國の輸出税は無税となすことを要す、小麥は將來北満に栽培して輸出を旺盛ならしむ見地より舊税率二角二分に蕎麥も現在價格割高のため輸出不振なれば舊税率の一角六分に引下げを要す、大麻子小麻子、蘇子、胡麻の如き製油原料に割高なるときは日本は南洋産のものを使用するため日本への輸出不振なる故に舊税率の從價五分或は擔一角八分に引下げを要望す

米穀統制と樞府の本會議
農林省官制案可決

【東京十八日發國通】樞府定例本會議は午前十時宮中東溜間で　天皇陛下親臨の下に倉富議長以下各顧問官、齋藤首相以下各閣僚出席の上開會され米穀統制實施のため米穀法の字句を米穀統制法と改正に伴ふ農林省官制案を可決し十時半　天皇陛下入御遊ばされた

滿蒙毛織販路擴張

【奉天十八日發國通】滿蒙毛織株式會社では豫てより北満進出を企圖し之が手始として、今春以來、チチハルに出張所を設置すべく着々調査を進めてゐたが、チチハルの博齊工廠小賣部を最適地とし之が借入れ方を交渉中仲介者に不徳行爲があつた爲、一時行惱みの状態に陥つてゐたところ此程中間斡旋する者あり、去る十五日より開店の運びとなり目下同地南大街瑞林祥に假營業所を設置してゐるが、同所は被服廠を通じて關東軍側及び満洲國との間に相當大口の取引を行ふべく同所の正式開業の曉は相當販路も擴張さるべく各方面より注目されてゐる

山東省の財政
整理は困難

【天津十八日發國通】政務整理委員會に出席した韓復榘は本日支那側記者に左の如く語つた

今次の來平は委員會に出席のためであるが附帶事項としては山東省の財政困難の事情泰山にある馮先生が多額の費用を必要とされることを述べこれが前後策を向黄郛氏と打合せの爲めで兩三日中に濟南に歸へる豫定である

日銀週報

【東京十八日發國通】
發行兌換券　一、一〇四、五一九
正貨準備　四二五〇、六九
保證内譯
公債　二三六、三九四
政府證券　二二一、〇〇〇
證券　一〇二、六九六
手形　三九八、三五九

對外爲替

【東京十八日發國通】對外爲替は
對米　廿七弗丁度賣　同四分ノ一買
對英　一志二片卅二分ノ五賣　卅二分ノ七買

玉蜀黍と豚の生産統制
所要經費三億五千萬弗で
米農務長官發表

【ワシントン十七日發國通】米國農務長官ウオレース氏は十七日玉蜀黍と食用豚の生産統制計畫を發表した、右計畫は明年度に於て玉蜀黍栽培段別二割並に二割五分の減産を實行することを目的として打擧を蒙るべき農民に對し總額三億五千萬弗を支出せんとするものである該計畫には更に貧困者に對し四百萬弗の豚肉製造食糧品を配給し緊急豚買上計畫に依つて得られた一億ポンドの豚肉配給を平行して實行する案も含まれて居る

珠玉を碎く
(百四十六)

吉井勇
(高根秀浩畫)

最後の舞臺(十一)

鈴子の口から兎開き前に西洋菓子の折が京子から屆けられたことが判ると、すぐにもう嫌疑が京子にかゝつた。が刑事が京子の姿を探しに行つた時には、もう彼の女の姿は劇場の中には見えなかつた。と同時に京子が、大貫と一緒に逃げたらしいといふことが判つて來た。大貫はもうとうに、ある重大事件の犯人と目指されて、警視廳でその行方を探してゐる最中なのだつた。

英一がびつくりして露子の部屋に驅け付けた時には、かの女はもうすつかり蒼ざめた顏をして、不覺の睡りを續けてゐた。何か劇しい毒を呑まされたものに違ひないといふだけは判つたが、それが何といふものだかといふことは、醫者にも判らないらしかつた。昏々として眠つたまゝ、心臟がだんだん衰へて行くので、カンフルの注射が幾度か行はれた。

「如何でせう。大丈夫でせうか」

英一が心配さうにさういつて訊くと、醫者は不安さうに首を傾けながらいつた。

「さあ、何うも……」

こんな騷ぎで觀客には斷りをいつて『娑婆含』はそのまゝで後に殘つてゐる喜劇をすぐに出したのだが、他の女優達もいくら舞臺でも陽氣に笑つたり何か出來ないと見へ、陰々滅々とした空氣のうちに打出してしまつた。觀客がみんな出て行つてしまつて、そつちの電燈が消されてしまふと、樂屋のいくつかの窓に二三燈の灯影が見えるばかりで、城のやうに聳えた劇場の建物も、何だか大きな墓のやうに見えた。

「晝でも夜でも、
牢屋は暗い……。」

不圖昏睡してゐる露子の口からかういふ『夜の宿』の中の唄が囈語のやうに洩れたかと思ふと、それからは刻々に彼の女の容體が險しくなつて行つた……。

英一は事務の原田と並んで、枕頭に坐つてゐたが、夜が更けるに從つて、何だかこれまで知らなかつたやうな、凄慘な氣が感じられた。美しく化粧をした顏にも、きらびやかに衣を飾られた印度風の衣裳にも暗い影は見出されないのに、もう死は刻々に近付いてゐるのだと思ふと、かへつて一層深い傷ましさが感じられてならなかつた。こんな美しい死顏が何處にあらう。こんなきらびやかな衣が何處にあらう。

そんなことを考へながらじつと露子の顏を見守つてゐると、英一は不圖原田の囁くやうな聲を聞いた。

「ねえ、君。これはみんなあの大貫のやつたことぢやあないのかね」

「えゝ、大貫……」

英一は覺えずぞつとしたやうな調子でさういつて訊き返したが、それと同時に彼の胸には、この間鎌倉の砂丘の上で、大貫のいつてゐた謎のやうな言葉が思ひ出された。

「さうだ。あいつだ。みんなあいつだよ」

さういつた英一の言葉には、むしろ戰くやうな恐怖の響きが籠つてゐた。

「あいつが書いた筋書は、こんな殘酷な大詰だつたのだらうか。京子と露子の戰ひも其時終るといつたが、しかし之では誰が勝ち誰が負けたのだらう。結局二人とも負けたのだ。舞臺の上の戰ひは到頭どつちかゞ死ぬまで續かなければならなかつたのだ。しかし……」

英一はさう考へてからもちよつと微に首を振つた。

「あいつは生きた繪だけは描き損なつたな」

間もなく露子の知死期は來た。しかし臨終の息は夜風のやうに靜かだつた。

日印會商本筋に漸く新局面を展開

印度側—綿布問題と並行し雜貨問題を提議

(シムラ十七日發國通) 綿布關稅、印棉買付數量に關する印度提案で日印會商は本筋に入り新轉開を示したが、印度側は尙雜貨問題に執着し、十三日以後活動を停止せる專門委員會續行を企圖し、專門の委員ハーデイ氏は十七日カルカツタに急行し材料蒐集を開始した、ハーデイ氏は廿五日迄に歸る豫定であり、印度側は綿布問題と並行して雜貨問題を討議する意向である

印度提案を拒否に決定

棉不買は別個問題

(東京十八日發國通) 外務省では澤田代表よりの公電は未だ到着しないが新聞報道の印度提案は日本提案と懸隔あり應諾し難く、十九日の會商で澤田代表より次の論據で提案を拒否するものと觀測してゐる

一、輸入綿布割當數量三億平方碼見當では最近十年の平均數量で日本案たる五億七千八百萬平方碼の半額に過ぎず、且又我綿布輸出は著しく技術的進步し、十年平均では受諾し得ず

一、印棉一定量買付と我綿布輸入割當てを綿布關稅引下げに關連させることは印棉不買は當業者の自發的行爲で別個の問題だから不可能である

修正要求回訓

倉田代表の請訓に

(大阪十八日發國通) 印度提案は紡績聯合會にも入電同時に倉田代表より之が態度を請訓して來たので紡績聯合會では午後二時から綿業俱樂部に委員會を開催、協議の結果日本側の修正要求を回訓する事となつた、紡聯への入電は嚴秘に附されてゐるが新條約の根本精神は最惠國條款により

一、關稅率
一、輸出綿布の割當數量
一、日本の印棉買付量

を關連させてゐる、目下一致してゐる意見としては綿布關稅五割は綿布輸出數量割當と印度棉花と別個に承認し、綿布輸出數量割當と棉花買付量との相關々係を中心として今後折衝せんとする模樣である

棉花綿布の—數量協定が問題解決の鍵

要は印度側の讓步

(シムラ十八日發國通) 十七日の第八次日印政府交渉で印度側が提出した具体案により計らずも印度政廳が今回の日印會商を機として印度產業の保護政策に一大轉換をなすに至つたことが明かにされた、即ち從來は專ら關稅の引上げにより自國產業を保護せんと企圖してゐたが之によつて目的を遂げ難い事が過去の實績により明かとなつた以上徒らに日本側の

『感情』を損ふのみで何等効果の無い高率關稅を實施するよりは寧ろ反對に關稅を低下して、其代り輸入量を制限する實質的協定を遂げる方が効果的だとし、現行稅率よりは思ひ切つた低率を提案したものである、此の轉換には固より印棉ボイコットの報復手段も與つて大いに力があつた譯だ、斯の如く關稅問題は比較的樂觀され居り棉花、綿布の數量協定が纏まれば困難なく解決するものと觀られ、殘る

『問題』は棉花と綿布であるとはバーターシステム（物々交換主義）により綿布輸入量と棉花輸出量を比率的に決定せんとするものであつて、昨日の提案には基礎を示したものである、而してこれが實際方法としては金額を基準とする時は稅關統計によつても正確な輸出入總額を知る事は不可能であり、種々不便を伴ふのであくまでも輸出數量を基礎として棉布の輸入量をもこと比例的に決定せんとするものである、右に關する昨日の

『印度』側提案の數字は印度紡績業者、棉作者手織業者の妥協により政廳側に答申したものと傳へられる數字と比較する時は綿布の量は一致して居り、棉花は近似したものである、從つて利己的立場のみより考へず。而も斷引もあり印度政廳よりは大要右の如き要求を爲すものと豫想される向當業者の答申は殆ど其まゝ採用した數字を政廳代表が提案した點より觀て向其處に讓步の地が殘されて居ると觀るべきであつて、今後は印度側がどの程度迄强硬に出て來るか、どの程度迄歩み寄るかが問題の中心である

十九日の本會議取止め

(東京十九日發國通) 十七日の日印政府交渉の結果双方の提案の間に可成の開きあり、澤田代表とギーア長官との私的會商により解決が期待されてゐたが、俄然昨日午前十一時澤田代表は松島氏を伴ひギーア氏の私邸を訪問、午前十一時より私的會見を行ひ正午終つた、右會見より觀れば印度は可成强硬な態度だが問題は單に技術的のみでなく日印兩國將來の關係を考慮に容れ政治的に解決を圖る氣運濃厚となつて來た、尙ほ我方は右會見で印度側の肚も稍々判つたので對策協議し本省に訓令を仰ぐ事となり、此爲十九日豫定の本會議を取止めることとなつた

依然話つかぬ日英民間協議

英國側歸國を急ぐ

(シムラ十七日發國通) 日英民間協議會は其後依然話つかず、何時再開されるか前途全く豫測出來ぬ有樣だが、英國側はなる丈け早く結末をつけ既に船室も豫約し來る廿八日の船で歸國すべく焦慮してゐる、つまり英國は日印政府會商の經過を觀て日英印の三國の名で共同聲明書を發表して民間側の後始末をつける氣らしい

北鐵料金の引下問題再燃

理事會で審議さる

(ハルビン十八日發國通) 北鐵理事會は十七日午後一時より同五時まで會議を續行されたが、またまたソ聯側は東西國境驛に於ける貨物直通を要求し、これに對し滿洲國側は拉去車輛を返還せざる限り貴方の要求は容れぬと一蹴し、右問題は未解決のごたごた問題は未解決のまゝ十八日の理事會に持越すこととなつたが特別委員會附託となるのではないかと觀られてゐる、ソ聯側は頻々たる列車襲擊事件防止のため護路軍の組織整備を提議するところあつた、十八日の理事會は午後二時より開會され、料金引下げ問題の對策が審議された

北鐵新京支社廢止

(ハルビン十八日發國通) 北鐵當局は元北平にあつた支社を奉天に移し後、國都新京に同支社を移轉してゐたがハルビンと新京との連絡は僅か一日で出來るので最早その存在の必要を認めなくなつたので右新京支社を去る十五日撤廢したので露人主任サイコフスキー外支社員も已にハルビンに引揚げて來てゐる

方、吉兩軍無條件で降伏

湯玉麟も掃匪司令として宋の配下に忍辱

(東京十八日發國通) 某所着電 九月十一日反蔣の旗幟を掲げた湯玉麟、方振武軍は其後利あらず十六日午後二時方振武、吉鴻昌は幕僚と共に馮系の第一、第二、第四師に無條件降服を申出で天津に向つた、突發事件無き限り十七日中に兩軍の處理も全部完了の豫定で、湯玉麟も宋哲元の統制下に掃匪司令として正規軍に編入され度き旨何應欽に申出で方吉問題は一應解決する事となつた

(天津十八日發國通) 政務整理委員會第三次全體委員會は本日午前九時半豐澤園に於て開會、黃郛以下于學忠、徐永昌、宋哲元、韓復榘、王樹翰、袁良等十八名出席し黃郛先づ首席として河北の財政、外交問題等重要報告をなしたる後方吉部隊の處置の經過並びに保安隊の剿匪問題に就いて述ぶるところあり續いて討論に入り委員會の經費問題、內部改組問題等が長時間に亙つて商議され、正午散會した

ソ聯に誠意なく不法事件益々續出

外務省太田大使に訓電して嚴重に抗議せん

(東京十八日發國通) 浦鹽港の水先强制その他ルーブル對圓價の不法なる換算等不法事件續出するので外務省は太田駐露大使に訓電して、ソ聯側に嚴重抗議をすることとなつた

今度は留貨換算に不當なる壓迫

外務省が實情を調査

(東京十八日發國通) 最近ソヴイエートの非友誼的行爲の頻發に鑑み外務當局は斷然たる態度を執る外無いと强硬決意に傾いてゐるが最近又復カムチャツカ沿海州に出入する我船舶に噸稅、水料等の計算に際しルーブル貨の換算率に不當な壓迫を加へつつあり、即ち一ルーブルに邦貨二圓七十五錢の不當な換算率を强制してゐる、右は昨年日ソ間の北海漁業借區料換算率一ルーブル三十二錢五厘の協定成立の事實を無視するものであるから外務當局は室蘭の北海道船主大會よりの陳情もあり實情調査の上モスクワ政府に嚴重抗議するに方針決定した

怪文書はソ聯自ら

不信を暴露

(ハルビン十八日發國通) モスクワ政府はタス通信をして所謂怪文書を發表せしめて居るが右につき滿洲國側某要人は左の如く語る

日本は好意的に北鐵の讓渡交渉に斡旋を執つて居るまでだ、北鐵ソ聯職員の拘引取調べは不正行爲があるから何等不思議とする所はない、獨立國の司法權、警察權の當然の發動に過ぎない、ソ聯は怪文書を發表して國際關係を自國に有利に展開せしめんとしたものであらうが該怪文書の反響として見るべきものは何物もない、外交上横紙破りを常套手段として來たソ聯は益々世界各國に對し「ソ聯は何をやるか判らぬ」と云ふ不安の念を一層强烈に懷かしめ自ら國際關係上悲境に陷るのみだと斷ぜざるを得ない

不法入境赤露兵と漁夫三名逮捕

ソ聯の逆ねぢ抗議を一蹴

(ハルビン十八日發國通) 十八日外交部北滿特派員公署の發表によればアムール溯航を了へて歸航中であつた江防艦隊大同、利民の二砲艦は九日午後三時頃たまたま璦琿の下流七八キロの

『地點』オルロフカ村近くの滿洲國領の島(名前不詳)に赤衞兵八名、漁夫二名が不法入境し出漁中なるを發見し、乘組水兵は彼等を不法入境の生きたる證據として直ちに兵卒ナザロフ(二三)・漁夫二名を逮捕し密漁の物的證據としてボートと網等を押收した而して前記三名の者はハルビン警察に引渡し取調べを行つてゐる、これに對しスラヴキー總領事は右の島はソ聯領であるとし十月六日文書をもつて、また昨十七日口答にて江防艦隊の

『行爲』は領土侵害であるとし故直ちに前記ナザロフ以下三名を釋放されたしと要求したが、外交部は右の島は國際公法よりみるもまた愛琿條約にみるも明かに滿洲國領土なりとし逆捻的にソ聯側のこの不法入境並びに密漁を抗議してソ聯の要求を一蹴した

反戰會議代表

(ハルビン十八日發國通) 曩に上海に於て開催された反戰爭會議代表マーレイ、クチリエ氏一行はハバロフスクを訪問、ソ聯ハバロフスク極東政府要路者と懇談を遂げた後本年末より極東自治猶太人自治州視察の後モスクワに向ふ由である

日米關係打開に民間代表交換

石井子、廣田外相を訪ふて具體策進言につき

(東京十九日發國通) 石井菊次郎子は十八日午前十時外務省に廣田外相を訪ひ約二時間政治經濟會議經過に就き報告すると共に日米關係打開の具体的方法に關するルーズヴエルト大統領との

『華府』豫備會商に基づきル大統領も日米關係協一の外交工作を講ずる必要を認めて居り日米平和維持條約締結にも贊成の意向である

一、日米關係の圓滑を圖るには兩國民の相互感情の親和を圖るが最緊要事である
一、兩國民の感情の接近を圖る具体方法は第一には兩國が其民間の有力者を交換派遣し自國民の信念感情を卒直に表明せしむる
一、米國に滿洲國の門戶開放されて居る事を理解させる爲米國資本の滿洲投資等を取計ふ事

等重要意見を詳述したが、廣田外相も豫て同樣意見を有して居るので石井子の進言に力を得て近くグルー米國大使と

『問題』に關して會見し、具体化に努力する筈、私的國民代表を米國に派遣する場合は既に外務當局では左の如き顏觸れが考慮されて居ると

近衞文麿公、幣原喜重郞男、櫻井錠二、藤澤利喜太郞、賀川豐彥、池田成彬、各務鎌吉、鄕誠之助、兒玉謙次の諸氏である

國際危局に外交工作必要

軍備は最惡を豫想し充實　參議官會議で陸相說明

(東京十九日發國通) 十八日の非公式陸軍軍事參議官の會合に於て荒木陸相は國策樹立に關する五相會議に就いて說明せるところは大体左の如くである

海外國策樹立に對して今次の情勢から判斷して各閣僚から意見が述べられてゐるが、今後豫想される

『國際』危局に對しては外交工作によつて努力すると共に萬一に於ける最惡の場合を考慮して何時にても之に對處する軍備を充實して置くことについては各閣僚の意見一致してゐるところであるが、豫想される最惡の場合の時期其他に就き未だ見解の一致を見てゐない、しかし同會議に於ける各閣僚の意見は根本國策には意見一致してゐるから或は多少遲延するかも知れぬが二十日の會議で

『大體』意見が纏ることになれば同會議の結果は齋藤首相から閣議に報告し廟議の決定を見ることになると約半時間に亙つて報告說明した

各參議官も陸相支持

非公式會議

(東京十八日發國通) 陸軍では午後二時より大臣室に非公式に軍事參議官會合し荒木陸相、柳川次官、南、眞崎以下各參議官出席して柳川次官山岡軍務局長からドイツの脫退及びソ滿國境問題及五相會議の經過に就き說明し、荒木陸相は五相會議の自分の主張につき陸軍は戰爭を企圖するとか陸軍豫算分捕りのための軍本主義だとか逆宣傳が行はれて居るが、我主張は陸軍省と參謀本部の研究の結果を基礎とさせるものにて皇國日本の建設を根幹とする、對外的には國際的には協調による平和工作の必要は勿論なるも現下の情勢はこれのみでは困難だ一旦緩急ある場合に際して國家の安全保障をなし得る最少限度の備へを先決とする、對內的には右對外策に順應して凡ゆる不安を除去すべきでこの兩者とも十一年度までに完成を要する旨を述べ、各參議官はこれに同意した

廣田外相參內

外交國策奏上

(東京十八日發國通) 廣田外相は就任以來我外交國策を如何にするかに就き各方面の情報を綜合して考慮中であつたが、大体の方針を決定したので十八日午後一時廿分宮中に參內 陛下に拜謁仰付られ就任以來の國際情勢並に之に處すべき帝國政府の方針に就ての自己の所信並に五相會議で研究中の內容をも奏上種々御下問に奉答午後二時十七分退下したが外相今回の奏上は就任以來始めて國際情勢並に之に處すべき外相の所信を奏上したものである

人事往來

▲村上滿鐵理事　二十日午前七時來京の豫定
▲大淵滿鐵理事　二十一日午前七時來京ハルビンへ、二十二日引返し一泊[illegible]
▲梅谷鴛彥氏（貴族院議員）

▲[illegible]十八日午后七時三十分來京
▲臧式毅氏（奉天省長）同上
▲藤田書記官（陸軍省）十九日午前七時來京
▲河本滿鐵理事同上
▲石本寛治氏（滿鐵總務部長）同日午後一時五十五分來京
▲林顯藏氏（滿鐵總務部庶務課長）同上

團体

▲山口縣小學校長團七名十九日午後三時二十五分來京
▲シンジケート銀行團八名十九日午前八時四十分發哈市へ二十日午後十時廿五分來京
▲大阪港區學校長十二名十九日午後四時三十分奉天へ
▲[illegible]十日午前六時三十分發吉林[illegible]二十日午前八時四十分
▲京城女子師範生徒六十二名二十三日午前六時半來京二十四日午後四時三十分南行
▲平壤「BA」俱樂部滿洲旅行團一三名二十一日來京
▲京城師範生徒第十班八十七名二十三日來京、旭ホテル投宿、代表福田豐吉氏
▲京城都筑商會主催視察團四十二名二十四日來京、愛國旅館投宿
▲久留米商業生徒六十四名二十四日來京旭ホテル投宿、代表原放氏
▲京城師範生徒第二班七十五名二十五日來京扶桑旅館投宿、代表梅澤氏

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

倫敦銀塊　一七片一六分二
同　遠限　一七片四分三
紐育銀塊　三六仙四分三
孟買銀塊　五二留比一六分一三
米英爲替　四弗五三仙八分一
米日爲替　二七弗三三仙
米支爲替　二九弗三三仙
スチール株　三七弗八分七
アナゴンダ株　一二弗八分五

▲上海標金

現物	九仙三五
十二月限	九仙〇一
一月限	九仙一六
三月限	九仙二一
五月限	九仙三六
七月限	九仙五〇
九月限	九仙六五

本寄　八一七五〇 / 八二九八〇
步値　八二八五〇 / 八三九〇〇
[illegible]　八二九五〇 / 八三八〇〇

▲上海日本向
第一回　一〇四五〇〇
第二回　一〇四七五〇

▲上海倫敦向
賣値　一志三片四分一
買値　一志三片一六分五

▲上海紐育向
賣値　三八弗一六分三
買値　三八弗一六分五

▲大連金鈔票
現物　一二九五〇　一二二〇〇
十月二十七日限　[illegible]　十一月十三日限
寄付　[illegible]
步値　[illegible]
引値　[illegible]
高値　[illegible]
安値　[illegible]
出來高　[illegible]　不出來

各地市場

▲大連上海向　九六三五　九六三〇〇　九六二五〇　九六二一〇
▲大連正金台向　九六二〇〇　九四一〇　九五〇〇〇　九六五〇　九五一〇〇
▲阪神日米爲替　第一回　二八弗八分一二　第二回　[illegible]

▲大阪株式
大株　一七〇〇　[illegible]
同新　一二一九〇　[illegible]
鐘紡　二四七五〇　[illegible]
東新　[illegible]

▲同短期
新　一二一九〇　[illegible]
新　一二九五〇　[illegible]
大東新　一〇〇五〇　[illegible]

▲大連株式
鐘當　—
品先　—
五新　—
豆鈔　—

▲大阪三品
當限　[illegible]
十一月限　[illegible]
十二月限　[illegible]
一月限　[illegible]
二月限　[illegible]
三月限　[illegible]
先限　[illegible]

▲大阪棉花
當限　五一四〇　五一四五
先限　五四四五　五四五〇

▲大阪期米
當限　[illegible]
中限　[illegible]
先限　[illegible]

▲仁川期米
當限　[illegible]
中限　[illegible]
先限　[illegible]

▲横濱生糸
現物　七一〇〇　七一〇〇
當限　六九二〇　六九二〇
先限　七〇〇〇　七〇〇〇

▲カルカッタ麻袋
青筋　休
曬筋
爲替

▲大連特產
●麻袋
現物　[illegible]
十二月限　[illegible]
出來高　四萬枚

●大豆
袋込　[illegible]
バラ　[illegible]
十月限　[illegible]
十一月限　[illegible]
十二月限　[illegible]
一月限　[illegible]
二月限　[illegible]

●豆粕
現物　[illegible]
十一月限　[illegible]
十二月限　[illegible]
一月限　[illegible]
二月限　[illegible]

●豆油
現物　[illegible]
十一月限　[illegible]
十二月限　[illegible]
一月限　[illegible]
二月限　[illegible]

●高粱
現物　[illegible]
十月限　[illegible]
十一月限　[illegible]
十二月限　[illegible]
一月限　[illegible]

滿洲美術同人展 愈よ明日が蓋あけ
廿日から三日間西廣場校で 意外の傑作も多い

滿洲美術同人院の第一回試作展覽會は既報の如く二十日から三日間西廣場小學校及び城內商會で開かれることゝなつたが

『出品』中には意外の傑作多く滿洲國最初の試みとしては蓋し大成功と謂ひ得る殊に日滿親善結婚の成功者曾子仁君がその愛妻と共に三ケ月の日子を費して作り上げた苦心の大作は多くの人眼を引いてゐる又滿洲國は勿論南北支那の女流畫家の中で第一と屈せらるゝ楊令佛女史の作品はこれ亦非常の出來ばへとして一般同好者の賞讃を博してゐるその他民政部警務司長長尾吉五郎氏の力作に係る木机の彫刻大同報社長王光烈氏の行書司法部總長馮涵清氏の

『詩書』監察院總務處長藤山一雄氏の東西兩洋使ひ分けの畫幅奉天市長閻傳紱氏の隷書吉林省教育廳長榮孟枚氏の扇面書畫等は同好者の見逃すことの出來ぬ作品である

日滿文化協會 章程案を討議
文化委員會第二日

日滿文化委員會第二日(十八日)午後の會議には鄭國務總理、羅院長、袁參議、榮總裁、許次長並びに日本側委員全部出席、谷參事官、原田關東軍第三課長、田湯筑紫兩參議以下各要人列席の下に午後二時から開會され日滿文化協會章程案の討議に入つた、先づ榮起草委員より意見の開陳あり各項に亘つて十二分の討議を盡して午後四時閉會した、尚十八日廣田外務大臣より鄭國務總理宛に左の如き祝電が來り鄭總理より披露された

謹んで日滿文化委員會の成立を祝し將來の御成功を祈る
十月十八日 廣田外務大臣
鄭國務總理

菱刈大使 委員招待

滿日文化會議第二日を了へた十八日午後六時より菱刈全權大使は滯京中の各博士日滿全委員及び各要人を大使官邸に招待、滿洲側鄭國務總理、羅院長、張軍政部總長、袁參議、滿司法部總長、筑紫參議、田湯參議、遠藤總務廳長、許文教部次長、西山文教部總務司長、榮中銀總裁、日本側小磯參謀長、岡村正副參謀長、原田第三課長、谷參事官、吉澤總領事、三枝書記官、林出書記官

『席上』先づ菱刈大使より、滿洲國の治安確立成つて今や日滿兩國は文化の振興に向つて邁進しつゝある時わざわざ內地よりの遠路を來京された各博士及び兩日に亘る會議に於ける各委員の御骨折に對し深甚の謝意を表すると同時に此處に日滿文化提携の第一歩を築き上げられんとすることに對し心から御祝ひ申上げるとの意味の

『挨拶』あり、之に對し鄭國務總理會議開催前及開催第二日を了つた本日、二回に亘りわざわざ我々を御招待下されたことに對しては如何に菱刈大使が文化に對する多大の關心をもつて居られるかと言ふ證據であり、御厚意に對しては心から御禮申上げる今や故武藤大使の御德により國內の治安は完全に整備せられ今又菱刈大使の御努力によつて日滿文化の

『發達』が彌が上にも高まることを希望すると述べ、最後に服部博士よりの挨拶あり、一同歡を盡して九時散會した

第二次競馬 廿七日から

社團法人新京賽馬倶樂部秋季第二次賽馬會はいよいよ來る二十七日から二十九日と十一月三日から同五日までの六日間毎日午前十時から開始雨天は順延因に同倶樂部の幹部は左の通りである

董事長 吳長春
副董事長 箱田琢磨
常務董事 田原稔
同(會計) 五味武太郎
董事 島名輒十郎
同 吉井榮吉
同 安岡勝美
同 石本貫太郎
同 丹宗安一
同 王荊山
監事 四戸友太郎
同 丸山直助
同 小松象松

勝美夫人 刑務所へ

(大連十八日發國通)十八日午後三時檢察局に送致された兒玉勝美夫人は一應高井檢察官の取調べを受けた後起訴前の強制處分により同日夕刻嶺前屯刑務所に收容されたが、今は既に覺悟したものか落着拂つた態度だつた

新京驛前の左側通行徹底
安全道路完成とゝもに 新京署大童の努力

滿洲國の建國以來首都新京の人口は急激に增加するとゝもに、新滿はもちろん遠く內地から新京目指しての旅行者の數が日每に殖へ新京驛前は乘降客と自動車、客馬車、人力で

『非常』に雜沓をきはめ交通上危險を感ずるので當局ではこれが取締に就き交通巡查を驛前に派し指導にあたつてゐたが完全な取締が出來ず頭を惱してゐたところ、この程新京署保安係、鐵道地方兩事務所で協議の結果驛前に安全道路を設置することに決定し目下着々工事を進めてゐる同工事は本月末に完成する豫定であるが同完成とゝもに驛前廣場通行は步行者を除き自動車馬車人力車自轉車は總て左廻りとすることに決定した同左廻りの

『徹底』を期するため新京署では左廻りの宣傳ビラを全市に配布又廣場には交通巡查を配置し指導にあてることになつた

旅客事務競技

新京鐵道事務所では從事員の業務に對する趣味の普及並技倆練磨を目的として來る廿六日公主嶺驛黠呼室に於て管下各驛の旅客事務の競技會を開催するが新京驛よりは四名出場する筈で競技種目は左の通りである

出札競技、特種補充券發行乘車券の發賣小荷物競技、小荷物切符の發行小荷物の引渡

滿洲國各部に亘り 人事大異動か
適材適所主義で期待される 遠藤廳長の快腕

滿洲國政府に於ては全面的に政府各部主腦部の大異動を斷行して部內空氣の刷新を圖るべく、遠藤總務廳長就任以來愼重に詮衡中であつたが、愈よ成案を得たので近く適材適所主義により司長、處長級に亘つて相當廣範圍の人事異動を行ふこととなる模樣であるが、遠藤廳長就任以來最初の人事異動として各方面より大いに期待されて居る

小賣物價 引續き騰勢

(東京十八日發國通)日銀調查十月の小賣物價指數前月に引續き騰勢を辿り調查品目中低落せるは四品、騰貴せるは十三品で總平均は一四七、八前月に比し七厘の騰貴である

歐亞聯絡 旅客減少

(ハルビン十八日發國通)當地に達した情報によればシベリア經由歐亞聯絡國際列車は從來一週三回運行されて居たが來る十一月十五日より右國際列車は一週二回運行されることゝなつたが右は最近シベリア經由歐亞聯絡旅客が激減した結果であると、尚歐亞聯絡の國際列車は每週水、日ハルビンを出發するが旅客增加すれば從來通り一週三回運行に復歸する筈であると

前駐日公使 追悼會を開催

(東京十八日發國通)駐日支那公使として大正十一年から昨年まで十年餘日本に在勤し日支親善に盡した故汪榮寶公使が逝去してから三ケ月になる十八日を期し、目下來朝中の嗣子北平瀬豐銀行員汪滴熙氏、故人と親交ありし頭山翁、床次竹次郎氏その他多數參集午後五時工業クラブで追悼會を催し晩餐を共にし汪滴熙氏の挨拶あり追憶談に華を咲かせ八時散會した

四料亭は何れ劣らず
花柳界益々繁昌 九月中の總賣上高調べ

建國以來新京の花柳界は一時に好景氣來で四季を問はず月を逐つて益々好景氣で料亭側ではホクホク不景氣なんてす分も知らない有樣である、九月中の總賣揚高を見ると十七萬六千三百十一圓七十錢、內酒肴料九萬二千三百四十一圓六十五錢、藝妓花代六萬六千三百十五圓六十五錢、酌婦玉代一萬七千六百五十六圓四十錢で前月に比し總揚高四千二百六十圓八十五錢の增收である、なほ各料亭側の揚高を見ると曙の一萬五千七百四十八圓二十錢を筆頭に開花一萬五千三百九十九圓七十二錢第三位は八千代一萬五千五十一圓四十錢、次は千鳥一萬四千五百十五圓五十錢、やよひ一萬二千七百三十六圓二十二錢であるが第一位の爭は、開花、千鳥、曙八千代の四料亭である

鐵管工事で あす一部斷水
中央通以西一帶に 午前十一時から正午へ

西公園正門前道路工事のため第二水源地々盤が凹み落ち其のために今冬季鐵管が氷結の恐れあるので水源地鐵管敷設替へ工事を二十日行ふ、これがため中央通り以西一帶は二十日午前十一時から十二時にわたつて斷水のやむなきに至つたと

ペスト患者死亡

十六日警務局からの報告によれば、通遼を去る西方二十支里にある農村に十四日三名のペスト患者發生し十五日死亡した、なほ現地に赴いた防疫員は死体を燒却した

結氷期で 終航近し

(ハルビン十八日發國通)去る九月三十日ハルビン埠頭を出帆した西京號は大黑河方面より多量の貨物及び三百五十名の旅客を滿載してこの程ハルビンに歸航したが松花江本年度の航行も近く結氷期に入るので終航も愈々目睫に迫つた

松花江航運界は 空前の好成績
下流滯貨殆ど捌く 日本人も頗りに勇躍

(ハルビン十八日發國通)北滿の結氷期も愈々切迫し松花江の航行も終航期に入らんとしてゐるが、本年度の航運業に空前の好成績を示し、松花江下流沿岸一帶の滯貨は殆んど運搬された形である、即ち去る九月末までの統計を見れば前年度の水害と匪賊の跋扈が沿岸の貨物輸送を如何に阻害してゐたかが十二分に窺知される

大豆(ハルビン陸揚)單位プード(プードは日本の四貫三百六十匁) 六、六五九、六三三
大豆(江橋陸揚) 二、九三三、八三三
小麥 三、四三三、七九〇
雜穀 三八三、五七三
木材 一六四、九二

等であるが、本年度ハルビン江橋陸揚けの大豆は一〇、八〇三車、小麥三、四二四車約廿五噸に達して居る、右の內大豆は滿鐵がはじめて實行した江橋陸揚の混保大豆が空前の好成績を示して居るが將來輸送政策宜しきを得れば貨物の殆んど大半は江橋陸揚げとなるものと見られてゐる、尚本年度川豆の買出しに勇躍した日本商人は

三菱 一、六〇〇 七三七プード
三井 八九一、〇〇八 同
寳隆 一、四三六、〇四九 同

等である

土肥原少將 元の舊巣にかへる

事變當時立役者として活躍した土肥原大佐は少將に進級して內地の旅團長として腕を撫してゐたが、今回再び轉じて、生れ故鄉たる奉天特務機關長として來任することになつた

小野寺經理局長 新規要求說明

(東京十九日發國通)陸軍省の小野寺經理局長は昨日大藏省に藤井主計局長を訪ひ九年度陸軍豫算查定狀況を聽取し陸軍の新規要求は滿洲事變非常時對策及びこれ等と深い關係を有する最小限度でありこれ等の削減は容易に應諾出來ぬと述べた

オノラ前佛文相 勲一等に

(東京十八日發國通)親日家でフランス元文相オノラ氏は夫人同伴十八日入京したが、長き邊では同氏多年の日佛親善に對する功勞に對し、勲一等を授けられるがオノラ氏夫妻は十九日宮中に參內、陛下に拜謁仰付けられることゝなつた

山道國同幹事長 記者團招待

十七日午後七時半着列車で來京した國民同盟幹事長山道襄一氏は滿蒙旅館に投宿翌日午前中は關東軍司令部に小磯參謀長岡村副長を午後は官邸に菱刈司令官を訪問時局に就て懇談する處あつたが更に十九日は滿洲國執政に謁見、鄭國務總理と會見し、同午後六時から三笠町大陸春に駐京日本記者協會員を招待懇談會を催した

レビュー大人氣 大入り滿員の乙女座

レビュー團の寵兒として帝都淺草で人氣を一身に集中してゐた乙女座レビュー團大一座は市民待望の裡に十八日を初日として開演したが渴望の觀客は早くも定刻前より押寄せ立錐の餘地なく斯界の粒揃の美人レビューダンサーの曲線美と洗練されしジャズバンドに陶醉の觀客は萬歲界の人氣者千代廼家蝶九蝶呂九の罪の無い爆笑に久る方振で腹の皮をのばした十九日も又秋の夜長を樂しむ家族連で大賑を呈するであらう

立教敗る 對明治三回戰

(東京十八日發國通)立教對明治三回戰は午後二時十分、立教先攻で開始立教は三回に一點を先取したが明治七回八回に各一點を入れ二對一で明治勝つ

△バッテリー
明治—八十川、山脇、櫻井
立教—高野、影浦、白瀬

因に立教は昨日の試合に勝ち既に今年度リーグ優勝校となつた

街の日記

白菊町に ポスト設置

滿鐵社宅建築中の舊競馬場跡附近一帶の地を滿鐵では今回白菊町と命名、工事竣工と同時に新京郵便局では、新に配達區域內に編入、ポスト建設等住民の便宜をはかる事となつた

故日比野氏 鐵嶺で葬儀

關東軍特務部內に在る滿洲採金事業調查部羽田班警備員日比野健義氏は先に奧地で殉職遺骨が送られ來つたので來る廿一日午後三時から鐵嶺本派本願寺で葬儀を執行する旨調查部副委員長十河信二氏から各方面に通知された

消防手の怪我

新京消防署消防手姜作榮氏は十九日午前十一時頃自轉車で新町を日本橋通りに向け東一條通りに差しかゝつた際、右側から自動車の來たるを見受けそれを避けるため同所に停車してゐた馬車の後方に停車してゐたところ馬車が後すざりしたゝめ姜氏の自轉車が馬車に激突し、姜氏は振り落されて顔面に治療一週間を要する輕傷を受け自轉車は車体を破損した姜氏は早速新京醫院で手當を受けた

居住消息

▲岡田三良男氏(熊本縣人軍政部屬)三笠町一丁目二十一番地承田與太郎方へ
▲有村正人氏(鹿兒島縣人瓦斯社員)和泉町三丁目二ノ一番地へ
▲增田英郎氏(兵庫縣人調理人)チチハルから常磐町一丁目四番地へ
▲武藤儀六氏(長崎縣人請負業)平壤から東一條通り四十番地へ
▲二本柳廣氏(青森縣人)敷島通り六ノ二豐浦久三郎方へ

轉居

▲大久保繁太氏祝町二丁目二十番地から朝日通り四十五番地へ
▲狹間官一氏祝町一丁目十三號官舍から老松町十九番地信和寮內へ
▲竹本常造氏吉野町一丁目十三ノ二池田昌春方から熱河省古北口特務警察隊へ
▲友野不二雄氏日出町三同和クラブから富士町三丁目二十六番地瀬潮清太郎方へ
▲河村三郎氏入船町四丁目一番地から朝日通り四丁目三十五ノ二へ
▲西川正郎氏常磐町一丁目八ノ二から常盤町二丁目十番地ノ三へ
▲窪田卯之助氏常磐町二丁目十號ノ三から常磐町一丁目八番地ノ二へ
▲角田四郎氏(交通部勤務)日出町三ノ二同和クラブから錦町三丁目七番地錦ビルへ
▲貸室 新京ビル二階青木氏方、五人同居差支へなし
▲三井吳服店賣出し 十九日から二十二日まで祝町二丁目太子堂で開催中
▲津田茂氏(滿國官吏)新發屯から入船町二丁目十三番地へ
▲林泰二郎氏(自動車運轉手)東五馬路軍政部內から東五條通り五番地多田方へ
▲滋野德成氏羽衣町二丁目五ノ二からチチハルへ
▲伊藤清作氏(會社員)日本橋通九十一番地から老松町三番地ノ一へ
▲西村祥次郎氏曙町三丁目十六番地から錦町三丁目七番地錦ビル內へ

慶安異聞 艶魔地獄
（講談上演映畫化）

玉水三郎
（繪）長谷川小信

（六十九）

第一の復讐（五）

現在眼前に我家臣である相川忠太夫の首を見ては、青山主膳の憤怒は其極に達した。

「憎くき唐犬權兵衛、此上は唐犬が一家鏖殺に致して呉れん。先づ其血祭として使ひの者鬼門の鍬太とやら、予が成敗致して呉れん」

大刀取つて立上るを、又もや用人下役井倉源太左衛門、其袖に縋つて諫めた。

「御立腹はさる事ながら、よしや町奴の使者にもせよ、單身危險を恐れずして參つたものを、斬つて捨てるは大人氣なし。まつた武士道と致しましても、使者を斬つたとあつては、お家本來の前へも聞こへ如何と存じます。一先づ受取りを渡し、彼をお歸しになりましたる後、又此返報は手前方寸にござります。千五百石のお家と町奴一家と交換は御損かと憚りながら存じまする」

理の當然に主膳も、怒りを押さへ無念を忍び、

「然らば後の報復に、其方良き考へがあるか」

「ハッ、追て申上げまする。唯々今日の所は無事に……」

何か胸に一物あつての諫言らしい。又主膳も此度の事は、自分から大泥を擾はせたのが元でもあり、唐犬一家を鏖殺と言つたところで、そんな事をしたら若年寄が夕は置くまい。千五百石を町奴の爲に、棒に振らねばならぬと氣が附いたから、じつと無念をこらへる外はない。

ソコで源太左衛門が、一通の受取り書を認め、玄關へ出て來て、

「コリャ唐犬の使者、望みに依つて受取一通……ソレ受取れ」

鬼門の鍬太は、恐れ氣もなく一通を披げて讀んだが、

「フーム、首級一つ正に受取申候か……オットこれで可し」

「太儀であつた」

「オイ御用人、未だ何か用がありさうなもんだね」

「イヤ、受取りさへ取れば其方に用はなからう」

「ウンニャ此方にはねえが、其方に何か用がありさうだ」

「無いッ」

「ヘイー、こりゃ少し寂しいぞ。マア可いや……それなら歸るよ。御馳走なら今の中だ。大身の槍の田樂刺しでも……アッハヽヽヽ」

大膽不敵にも高笑ひして鍬太は青山の邸の玄關から、表門の方へ通る間今にも槍が飛んで出るか、それとも刀か薙刀かと、四邊に眼を配つて、身構へして出たが、何事もないので不審顏して、門へ出ると、

「兄貴無事か」

「鍬太、手前首があるな」

「何うして首があるんだ」

妙なことを云ひながら、そこへ顏を出したのは下戸前の民次で、五六人の仲間に棺桶を舁つがせて來たのであつた。

「ヤア御苦勞だつたな。みんなが乃公の骨を拾つて入る爲の棺桶が無駄になつちやつた。不思議に受取書きを出して何も言はなかつた……之には何か譯があらうと思ふが、右も左棺桶は無駄になつた」

民次はニコ〳〵笑つて、

「マア可かつた。そんな棺桶を持つて歸るのも縁起が惡いやア。何うだい青山の玄關へ置いて行かうか」

「面白いな、好い置き土産だ……さア舁つぎ込め」

玄關に立つてゐた源太左衛門吃驚して、

「コレ〳〵左樣な物を」

「兄弟分の骨を拾ひに來たが、もう不要になつたから、棺桶は置いて行くんだ」

「コ、コレ可かん」

「可かんも苦捷もあるもんか……さア歸らう」

十月二十日 舊九月二日　金曜　己未　佛滅　亢宿

●一白の人 甘き思案も浮かばず氣迷ひに終日を過す日 丙と庚と癸が吉
●二黑の人 器用に任せ餘分な小策をすれば失敗すべし 乙と壬と癸が吉
●三碧の人 他日に延引する仕事には取掛らぬがよろし 丙と庚と亥が吉
●四綠の人 理想通りに運ばぬ日目上に謀り獨斷を戒む 丙と亥と癸が吉
●五黃の人 工風才覺は失敗の恐れあり自重するが安全 甲と丙と壬が吉
●六白の人 不熱心なるは上達容易ならず精勵すれば吉 丙と癸と寅が吉
●七赤の人 小を積みて大きなり近きより遠きに及ぶ日 丁と未と寅が吉
●八白の人 辛拶甲斐の生ずる日動土普請は差控ゆべし 乙と丙と癸が吉
●九紫の人 曇天に晴れ間を見る如き日追々良好となる 戻と庚と寅が吉

新京日日新聞

日印兩代表私的會談
双方自說固持
局面の展開は見なかつたが
緊張場面の緩和劑

〔シムラ十八日發國通〕十八日午後澤田、ボーア兩首席代表は私的會談を行ひ特に綿製品輸入割當量と印棉買付量とに就き懇談的に交渉を進めた澤田代表は

『印度』政廳の對案に於て綿製品の輸入割當量を三億平方碼として居るのは貿易の實務と餘りに懸離れて居るを指摘し更に印棉買付量に就き百三十萬俵を要求するのは過大だと具体的數字を擧げて印度政廳の反省を求めたが、ボーア長官は右主張に對し相當强硬に印度案を固執し更に爲替問題をも蒸返したが、澤田代表は爲替の變動があればこそ日本品の輸入に關する數量制限に應じ官商を纏めやうとする

『誠意』を示して居る事實を擧げ、印度政廳が同一の爲替問題を再三引用することの失當な所を力說した、結局本日の私的會談では未だ局面の展開を見るに至らなかつたが緊張した空氣の緩和劑となつた

紡績聯合の最後的訓電 十九日決定

〔大阪十九日發國通〕紡績聯合會では昨日の委員會で民間代表よりの入電では詳細不明につき外務省と打合せし十九日午前十時綿業關係特別委員會開會に際して最後訓電を決定することとなつた

警備艇晴れの出動

〔大連十九日發國通〕滿洲國警備艇海光、海鳳、海榮の三艦は十七日より十八日にかけ相前後して大連入港、海榮は薪炭を補給して直に出港したが三艦とも莊河、大孤山沖に出動、海路逃走せんとする匪賊の討伐、武器密輸の抑壓等警備任務に服するもので晴れの重要任務を前に乘組將兵は極度に緊張してゐる

支那共產軍 主力樞要地に
逐次西域地方へ發展か

〔東京十九日發國通〕某所着情報に依れば最近に於ける支那共產軍の動きは極めて注目される、即ち現在の共產軍は大都市を避け討伐困難な山間僻地に根據を構へ地方的に共產地區を構成し、相互間に緊密な連絡を取つて農民の間に種々の宣傳普及に努めつゝあつたが、最近の傾向は隨時隨處に其勢力を發展せしむる爲共產軍の主力を樞要の地區に集中し待機せしめんとしつゝあり、現在共產軍の幹部が逐次西方に移動しつゝある事實から推して江西省南部に蟠居し揚子江沿岸に活躍した共產軍は逐次四川省を經て甘肅、陝西、新疆方面に移駐するのではないかと觀られてゐる

關稅問題は意見殆んど一致

〔シムラ十八日發國通〕印度政廳は關稅率に關する限り更に讓步する用意を有してゐる模樣で、三割乃至三割五分の基本關稅はオツタワ協定に基く一割の特惠稅率を換算し四割乃至四割五分までは

『引下』げてもよい肚らしい、但し印度案は五割の關稅率の外に圓爲替の暴落乃至騰貴に應じて關稅率を伸縮する條項をも含んでゐる、斯く關稅問題に關する限り印度政廳と日本代表部の意見は殆んど一致してゐるが日本綿布輸入量と印棉買付量との關聯に就ては絕對に讓步しかねると相當强硬な態度を示してゐる、印度政廳としては既に印棉買付最低量の保障要求を撤回し單に伸縮性により比例的に印棉買付量と綿布輸入量と關聯せしめる

『妥協』案を提出したのだから日本でも印度政廳の互讓的態度を考慮してもらひたいと稱してゐる、而して印度政廳としては右關聯案の原則が承認されぬ限り數字問題に就て討議するのは無用だとの立場を執つて日本代表部が關聯案を拒絕する場合にはシムラ會商は決裂の外ないと嚇し文句を並べてゐる

滿洲事變と今日の哈爾賓（三）
步兵第〇〇〇〇隊 平岡少佐

（六）日本品の賣行其他 事變後商店、兵營、鐵道等が盛に建築されるので建築材料の賣行がよくなり、日本人の增加は日本人向雜貨の賣行を增して來た、尙滿洲國人も日本人と取引せねばならなくなつたので自然日本人との交際が繁くなり其生活が向上し日常使用する品もより良き日本品を用ひる樣になつて來た關係上今迄日本品の輸入は下級品に限られてゐたものが現在では中等品が盛に輸入される樣になつて來たが今一步進んで日本の上等品が賣れる樣になれば更に結構なことである、毛織物の如きは從來外國品が王座を占めて居たが今日では日本品が外國品を驅逐するに至つた 尙火災保險、運送保險等にしても事變前には支那人は賄賂の多い方に保險を附けて居たのであるが今日では次第に日本の保險會社と契約する傾向になつたさうである

（七）取引所の設立 哈市其他に取引所が出來たことは經濟發展上の大利益である、即ち之を繋として大豆其他の大取引に應ずることが出來る樣になる譯である

交通及運信機關の發達

（一）旅客飛行機は哈市を中心として東は佳木斯、富錦西は齊々哈爾、滿洲里、南は新京を經て內、鮮、南滿各地に、北は綏化、海倫を經て齊々哈爾に至り之が國防、經濟上に資す所の利益は多大である

（二）電信は日滿電報局が出來て日本內地に於けるが如く和文電報で日本と容易に連絡が出來る樣になつた

（三）哈市の邦人電話加入者は最近迄三千三百口であつたが日本人の激增に伴ひ去る九月一日から純日本國產の優秀電話機を一千口增加し更に必要に應じ三千口を增加する準備が出來て居るとのことである 尙今日では哈爾賓から長距離電話により直接大連及齊々哈爾と「モシ、モシ」と語が出來る樣になつた

（四）鐵道は拉賓線を始め全滿洲各方面に亘り目まぐるしい勢で着々工事が進捗しつつある

（五）道路も亦大規模の計畫の下にそれぞれ工事中であるが哈市內外の道路の如きは最近面目を一新した觀がある、例へば哈市より東兵營の北側を經て部東三棵樹に到る道路の如きは數ケ月前迄は雨後は泥濘膝を沒する惡道であつたが今日では立派な道路となり三棵樹の發展と共に數日前から每日數回乘合バスが運行し始めた

拉賓線完成の曉には

拉賓線は本年內には列車を運轉し得る見込であるが延長二六八粁の此鐵路は五常拉林の沃野を縫ひつつ吉敦線の拉法と哈市とを結び付けるものであつて之が完成の曉には日滿聯絡の最捷路となるのであるが而も北滿鐵路南部線の運賃が滿鐵運賃に比し數倍の高率であると云ふ事實に想到せば此鐵道の價値が經濟上に於ても如何に大であるかが窺はれると思ふ、而して本鐵路を呼海線に接續する爲松花江上に架する新橋梁は長さ一〇四〇米に達し北滿鐵路のものより約四〇米長く鴨綠江の橋梁に比し約百米長く工費四百二十萬圓を要する東洋一の鐵橋である

拉賓線完成の曉には北滿の企業に一大革命を齎すであらう 哈爾賓＝綏津＝內地間の距離が哈爾賓＝大連＝內地間の距離に比し著しく短縮された結果拉賓線を經由する方が大連經由に比し早くもあり物が安く賣買出來ることになり從つて哈市の重要さが甚しく加はる譯である

日支關係の常道化促進に
北支政權代表渡日す

〔上海十九日發國通〕黃郛氏の下に在つて北支收拾に奔走してゐた李擇一氏は本日午前九時出帆の長崎丸で赴日の途に就いた、李氏今回の赴日は北平政務委員會代表の資格を以つて黃郛氏の命を受け日支關係常道化促進の爲諸問題を解決するものだと云はれ各方面から注目されてゐる

灤東匪賊の掃討が始まる
李軍既に行動開始

〔天津十八日發國通〕灤東の掃匪問題に關しては支那側と日本側との間に協定成立支那側保安隊並びに李際春部隊は十八日既に行動を開始した即ち李際春麾下唐景文の率ゐる八百並びに之と同じく同部劉佐周の率ゐる五百は十八日午後七時灤州出發秦皇島に向ひ、周毓英の率ゐる新編保安隊も十八日昌黎に到着した、掃匪總指揮たる張錫九は十九日昌黎着の上愈よ我軍と協定、殘留匪賊の總攻擊を開始の筈である

軍艦註文に應ぜず

〔東京十九日發國通〕造船聯合會は昨日午後三時工業倶樂部に例會を開きブラジルの軍艦建造入札には代金支拂條件

指導者日本よ
支那强化に力めよ
注目されるム教授の講演

ベルリン政治大學教授ハンスムザ氏は去る十二日安東經由入滿以來奉天大連各地を視察し近く來京の豫定であるが、同氏は新興滿洲國の政治經濟狀態を視察する傍ら各處に講演會を開きナチス政策を高唱更に極東問題に關しては『日本はドイツと共通點を有す、東亞に於ける指導的立場にある日本は混沌たる情勢にある支那の强化に力めて欲しい』と力說し各方面の注目を惹いてゐる

文化委員會第三日

日滿文化委員會第三日目の十九日は午前九時より開會鄭國務總理以下各委員出席滿洲國立文化院設立に關する諸事につき內藤博士より意見の開陳あり、十時半過ぎ一先づ休會し同十一時より執政招待の午餐會に列席のため寶熙氏の案內により執政府に至り、午後一時半より再開前記文化院設立に關し討議を行つた

日本語熱 白系露人間に

在滿白系露人間には最近日本語研究熱頗る旺盛となり、寬城子白系露人小學校では去る十日より之を正科に編入し軍政部囑託渡邊親男氏を講師に招聘した

上海日本紡績活況

〔上海十八日發國通〕最近日支關係の好轉に伴ひ上海日本紡績は略々事變前に回復日本製品輸入も非常な活況を呈し十月は二萬噸を突破してゐる

滿洲國俸給令 根本的に改正
一部官吏間の不滿も一掃
來年一月實施か

滿洲國政府では政府各部首腦部の全面的人事異動と共に現行俸給令の根本的大改正を斷行すべく目下國務院人事處に於て改正原案作成を急いで居るが、今回の

『俸給』令改正は官吏の身分保證の見地より退職賜金制を施行すると共に現行令が建國匆々の際の制定にかゝり、不備の點尠からず、滿洲國の基礎確立し國幣價値の安定を見たる現狀に立脚して根本的改正を行ひ、俸給令の合理化を圖らんとするものであるが、更に右俸給令改正の趣旨を徹底せしむ可く建國當初の不統一なる官吏任命により亂雜な狀態に置かれてゐる俸給不均衡の幣を一掃すべく全國官吏の俸給調査を行ひ、その現職、手腕力量、經歷、前俸給を

『基礎』に大英斷をもつて官等俸給改正を行ふと共に、今後日本官廳、關東廳、滿鐵其他より日系官吏招聘、採用に際しては一定の基準を設け、前任官等より一級以上昇級採用不許可方針を確立し、從來一部官吏間に不滿を醸して居た俸給の均等化を敢行、政府部內の空氣刷新を圖らんとするものであるが、今回の俸給改正は退職金制度の施行に伴ひ必然的に薦任級以上一割、委任官級一割程度の俸給減額を來す事となる模樣で、新俸給令の實施は來年一月よりと觀測されてゐる

白赤露人離哈
邦人の躍進と反比例し
逐月增加の傾向

〔ハルビン十九日發國通〕近來永年住み馴れたハルビンを見捨てゝ支那、日本、歐洲等へ四散する白系

『露人』の數がめつきり增へ彼等に出境證明書を下附する警察廳では一驚を吃してゐる、而も從來は主として生活に窮迫した白系露人が最後の血路を切拓くため支那、日本等へ動いたのであるが、近來の離哈者は地主や商人等の比較的生活に安定ある者が多い、之は日ソ開戰說等のデマが少からず影響して居るものと思はれる、警察廳の調査によると八九兩月の離哈露人總數は一千百十人で白系七八十人、赤系四百人となつて居り、十月に入つてからも此

『傾向』は甚だしくなる一方で一日の出境者平均四十人に達して居る、赤系の離哈は主として徵兵のため本國へ歸國するものである、此のロシア人の後退は日本人の著しい躍進と比して面白いコントラストを成してゐる

帝國外交史を幣原男が編纂
所要經費十五萬圓

〔東京十九日發國通〕我國には未だ權威ある外交史の編纂が爲されたことなく、我國開港以來の外交記錄は外務省の書庫に秘められてゐるが、元外相幣原喜重郎男は今回畢世の事業として之等の材料に基き一大外交史編纂に從事する決意を固めた、右外交史編纂事業は五ケ年掛りの大計畫で特に豫算十五萬圓を支出するものである、右につき幣原男は語る

外交史の編纂は私の念願である、今にしてこの仕事に着手しないならば帝國の外交史の完成は全く不可能である

どんな商賣屋が一番に多いか
やつぱり料理屋飲食店が……
中小商工業別調べ

事變以來の新京の發展を當て込んで進出した大小商工業は實に驚くばかりで、今新京附屬地內の中小商工業別に見ると滿人を除く、日本人丈でも次の如く、貸家、質屋、運送業請負、材木商、特產商、菓子商、用達、食料雜貨商、洋服商、料亭、カフエー飲食店、旅館、下宿、理髮等の激增が目立ち新京は今如何なる商賣が最も多く如何なる商賣が不足してゐるかが覗れるわけである

電氣 一 瓦斯 一 バス

業種	數	業種	數
銀行	六	信託	一
金融	六	貸家	一三一
質屋	一三	運送	一二
醸業	一	市場	一
倉庫	二	保險	一
保險代理	五	燐寸製造	四
製油	一	醬油釀造	一
酒同	二	煉瓦製造	三
煉瓦販賣	五	請負	七四
代理業	一	砂煉瓦商	一
石材商	一	材木	二八
建築材料	六	同家具	一
家具	九	煖房材料	八
金物	八	機械	五
計量測量	一	電氣器具	八
工事請負	二	特產	四
綿糸布	七	毛皮	一
牛骨	三	皮革	二
膠皮	三	貿易	三
麻袋	一	仲買	九
時計貴金屬	一二	同賣買	二六
和洋雜貨	一五	吳服	一二
陶磁器	四	寫眞機材料	二
小間物	二	履物	七
氈	五	蒲團	一
運動具	二	鞄製造販賣	一
書籍文房具	二	樂器	二
蓄音器	一	繪はがき	一
靴賣店	一	土產品	一
縫糸	一	綿花	三
煙草	四	用達	一〇
軍隊用品	一	食料雜貨	二三
酒煙草	一	酒	六
酒醬油	二	醬油	四
醬油漬物	一		
砂糖輸入	一	菓子	一四
パン製造販賣	三	煎豆	二
米穀精米	一六	茶	五
鮮魚	二	牛肉	一
蒲鉾	一	果物	一
コン蒻	一	石炭	八
木炭	八	酒精	一
油	六	自動車販賣	二
自轉車同	四	植木	一
硫黃	一	疊	九
印刷	八	紙印刷	一
寫眞	五	洋服	一三
化粧	三	自動車營業	四
自動車修繕	二	澄粉販賣	一
洋服材料	一	新聞販賣	四
看板硝子	一	鐵板	一
料理屋	四五	飲食店カフエー	一一五
旅館	三六	下宿	一八
醫院	一〇	齒科醫	五
產婆	二	美容院髮結	二
理髮	一四	湯屋	三
按摩	一	看護婦會	一
麻雀クラブ	一	玉突	三
謠曲師匠	一	尺八同	一
生花同	八	義太夫同	一
遊藝同	二	大弓	一
表具	二	造花	一
古著	一	古物	四
提灯	一	興信所	一
法律事務所	一	紹介所	一
代書	一	代書	三
教師	一	貴金屬細工	二
製本	一	澤枚製造	一
洗濯	五	桶屋	一
葬儀社	二	給水請負	一
印章	一	染物	一
牛乳	二	興業	二
射的	三	ペンキ	三

滿洲國紹介の小冊子
英文の分出來

滿洲國外交部では今回宣化司の編纂にかゝる英文「滿洲國」を刊行したが、右は小冊子とは云へ百六十頁を超える頗る氣の利いたもので、內容は種々滿洲國の實情を紹介し多數の寫眞を挿入、歐米人に對し一見して滿洲國の現狀を知悉せしむるに足るもので既に印刷を終つた一萬部は近く歐米各國に發送されることゝなつた

四平街 公會堂愈々竣工

市民の待望されてゐた四平街公會堂も愈よ竣工を見、二十一日午前十一時より左記式順に依り新設公會堂に於て盛大なる落成式を擧行する事になつたが尙廿一廿二の兩日間に亘り午後五時より餘興をプログラムに依つて開幕する筈である

一、式次第 開會の辭、工事報告、會計報告、寄附金內譯說明、祝辭、閉宴萬歲三唱

一、餘興番組

閉會

日蘇開戰說の流言を取締る
修警察總監の談

日蘇開戰說に關する流言取締に付修警察總監談

最近新聞記事に依る憶測並に匪賊討伐行動に基く日本軍隊の移動等を見て一部滿人間に於ては滿蘇國境に於ては既に日蘇兩軍開戰せり等の流言蜚語を無智なる民衆に流布し、昨今新京城內外の民衆には稍動搖の徵あるが斯る事實無根の流言を放ち無智なる民衆を迷はさんとするが如き徒に對しては嚴重處罰すべく極力內査中なるが一般民衆にありては斯る流言に迷ふことなく安心して家業に從事することを希望する

一、壽三番叟（德永社中）

二、鄙島（福住連） 長唄

三、末廣狩（鱗連） 長唄

四、雪の夕入谷畔道（松屋連） 淸元忍逢春雪解

五、浦島（鱗連） 長唄

六、勢獅子（松屋連） 常盤津

七、娘道成寺（連） 長唄

大切舊劇 奧州安達原三段目（松屋連） 袖萩祭文の段

千秋樂

中野東拓理事挨拶に回訪

東洋拓植株式會社理事中野太三郎氏は新京支店營業所新築落成式に高山總裁代理として列席のため來京滯在中であるが十九日新京支店詰在理事渡邊得志郎氏の東道で關係各方面を挨拶に歷訪した

郵便課長着任

新京郵便局郵便課長に着任した伊藤臺氏は十九日各方面を挨拶に歷訪した

天氣と氣溫

十九日の氣溫最高十七度八最低二度四二十日の天氣西の風晴れ

秋の果物
その榮養檢査
消化を助ける林檎と葡萄
子供には惡い柿

大いに食べよ

秋たけなはな此頃果物屋の店頭を飾つてゐる果物は主に栗、林檎柿・葡萄等だが、此等の果物がそれぞれ滋養に富んでをることは云ふまでもないが、今少しく其の榮養を調査してみると

葡萄の成分
蛋白質　一、三%
脂肪　一、六%
含水炭素　一九、二%

この含水炭素はブダウ糖、果糖で舌に溶けこむやうな甘味がある、甲州物は二二%以上の糖分を含んでゐるから葡萄の中でも一番である、尚ヴイタミンCは云ふまでもなくABも少量含んでゐるが、小兒には實は消化不良だから果汁だけを與へた方がよい

林檎の成分
蛋白質　〇、四%
脂肪　〇、五%
炭素　一四、二%

で甘味は葡萄に劣るがリンゴ酸から生ずる酸味があり、ヴイタミンCを多く含んでゐる點でブドウより優れてゐる、凡て果物はそうだが果物特有の消化酵素と云ふものがあるがこれを攝るには生のまゝ皮ごと食べるのがいゝ尤も子供はそうは行かないが

柿の成分
蛋白質　〇、五%
脂肪　〇、〇二%
含水炭素　三一、五六%

柿の澁味は何かと云ふにタンニン酸の作用である、それは柿特有のものであつて便秘を起させるから小兒にはなるべく柿は與へない方がよい

栗の成分は
澱粉　三六、四九%
脂肪　二、九〇%
蛋白質　〇、三八%

それにヴイタミンA、Bを少量含んでゐる、澱粉、蛋白質共に甘藷に比較してづつと多い、以上でみると柿を除いてはすべて「消化酵素」があつて消化を助けるそれにヴイタミン含有量も他の食物に比較して多いのであるから今果物の豐富な秋に多いに食ふべきである

主婦控へ帳
ネクタイ洗ひ方

ネクタイは揮發油かベンジン油を脱脂綿に含まして汚れたところを擦るのですが、ひどく汚れたものは密閉のできる容器にベンジン油を入れ、その中に三十分浸して取出し、充分乾かしてから今度はブラシで一度よく拂ひ、そしてゼラチン一枚を一合の温湯にとかし霧吹きでネクタイの裏から充分に吹きかけ、よく形をとゝのへて白いきれに包んで二時間許りそのまゝにしておきます、さうしますと全体がしめりますからそこでアイロンをかけて仕上ます、ベンヂンにつける場合でもごく脂じみた部分や汚れた部分は前以てきれいにしておくがよろしいのです

よい風邪引きに
大根の粕汁

湯氣が段々寒くなりましたので鍋料理も味噌汁などの温いものがよくなりました、体を大變温める大根の粕汁を御知らせしませう

材料―大根、葱、酒粕、白味噌、拵へ方―大根は竪に四つ割とし二分位の銀杏に切る葱は白根を五分切りとし、酒粕は大匙に山盛二杯ほどを白味噌五十匁と擂鉢でよくすりつぶし交ぜ合せ、七合五勺ほどの水でのばし煮立て鰹節一つまみ入れて一度こし再び煮立て汁の實を入れて供します、この汁は冬季に冷ひると冷え性の婦人などや胃ひの患者などには頗るよいが酒の香がするので子供には不向です

□

僕は先生のお話を聞く度に早く大きくなり立派な軍人さんなりたいと思ひます兵隊さんしつかり天皇陛下のために勝つて下さい（五年生福重達男十二歲）

い敵を皆やつゝけて下さい、それを僕は待つてゐます（五年生松本國雄十二歲）

ブラジル邦人學童
在滿兵士慰問
▼…寄せた純情の數々

遠く故國を離れて珈琲實る南米ブラジルの新天地開拓に活動してゐる數萬の我が移民達も滿洲事變勃發以來祖國の大事と異常な緊張味を以て努力をつゞけてゐるが先頃サンパウロ州の東洋小學校の兒童から數々の慰問文が寄せられ左記一部發表を見た

□

皇軍の聖戰は遙かの當地にても新聞紙上で拜見仕り其の度每に感激の涙禁じ得ず候「討匪行」「亞細亞行進曲」は兒童も非常に喜び唱和致居候、兒童よりの手紙「滿洲の兵隊さんへ」と題して綴らせたるもの邦人第二世の廻らぬ筆にて甚だ不出來なれども却つて眞情をお傳へ申すことが出來ると存じ原文のまゝ御送り申上候（細井訓導）

□

先生に滿洲のお話を聞くと日本の兵隊さんは寒いところで馬賊と戰つてゐられるさうで敵を追かける時はドンなに疲れるでせう、どうか兵隊さんお体を大切にして何時も勝つて下さるやうに祈ります（三年生貝田靜子十一歲）

□

兵隊さんは寒い寒い滿洲で御國のために働いてゐらつしやるさうで、さぞ辛いでせう、けれども御國のためと思つて戰つて下さい、そして馬賊に勝つて下さい、私達は兵隊さんのことを思ひ「討匪行」や「亞細亞行進曲」を皆で歌つて遠くから應援してゐます（高等二年細井司郎子十三歲）

□

滿洲にゐる兵隊さん、寒い滿洲で御國のために働いて下さつて有難う御座います。兵隊

鮮魚小賣相場

品名	値	品名	値
活鯛	一三五	チヌ鯛	三六
アマ鯛	三四	小鯛	四八
マグロ	一二〇	ニベ	九
ブリ	一二	ヒラス	三二
サハラ	三〇	スゝキ	一三
アジ	一二	ヒラメ	一三
ボラ	一三	コノシロ	二六
キス	四〇	イワシ	一二
タチ	五	ハゲ	二六
オコゼ	四五	メバル	一〇
ウナギ	六〇	サヨリ	六〇
グチ	一一	ホーボー	一〇
タコ	三〇	甲イカ	七〇
水イカ	三六	イセエビ	一〇〇
中エビ	六二	ハモ	五
アナゴ	三〇	ナマコ	二〇
アワビ	四五	カキ	三五
シジミ	七	カマボコ	一八
星カレ	二〇	小イカ	一〇
ヤズ	一〇	サク	一七
糸入	三二		

童話 いろ／＼（一）

新京日本基督教會日曜學校　中村丘

皆さん、皆さんは新京驛前廣場に立つて眞直ぐに向ふを見ると中央通りの右側に高い／＼塔が見へるのをご存じでせう、あの塔のあるおうちは皆さんがだれでも樂く面白く遊べる敎會ですそこでは日曜ごとに日曜學校があります、とても面白いお話しをして下さる學校です日曜にはお友達みんな手をつないでお話をきゝに行きませう、歌もうたへますよピアノやオルガンもあります、こゝに四つ五つそのおもしろいお話になるお話しや歌をご紹介しませうこんなお話をやさしい先生がにこ／＼笑つてお話して下さいます

ジヤンケンポンヨ

「ずるいよ／＼、兄ちやん、ずるいよ」

弟の文坊が泣き相な顔をして悪戯好きな健坊を見上げました

「だつて僕、パー出したぢやないか」

「ちがふよ／＼チヨキだよ／＼」

「ぢや、もう一回、チヤン、ケン……」

「いやだよ」

「いゝわい僕、かあつた……」

ワツと泣き出す弟の文坊、そこへ近づいたのは若い青年

「あつ、日曜學校の先生、にげよ」健坊が走り出しました。

「健ちやん／＼、ちよつと一、ジヤンケンポンヨ、アイ

若い青年は家に歸つて、すぐペンを走らせました

く、文ちさん泣いてゐるぢやないかね、どうしました」

「あーん／＼兄ちやん、ずるいやー、あーん／＼」

「文ちやん、お止め、ね、どうしたの」

「兄ちさん、チヨキ出してパーにかへたーあん／＼」

若い青年は小さい爭いの起りをすぐ感づきました

「健ちさんも、文ちやんも日曜學校へ來て、いゝ子になる樣に、神樣の御話を聞いてゐるでせう、そんな事で兄弟けんかしたら、神樣に申しわけありませんよ、健ちさんはお兄さんだから負けてあげなさい、文ちやんも泣くの止めて、さあ面白く遊びませう」

二人「はい」

コヂショイ日

みんなで遊ぼう　仲良く遊ぼう

神樣良い子　勝たしてちやうだい

よい　よのよ

二、皆よい子供　勝負がつかんどうしませうか　お祈りしませう　神樣お利巧　勝たしてちようだい

パーチヨキジヤン

△グー　パー　ジヤン

△グー　チヨキ　ジヤン

新刊紹介

△實業公論（十月號）卷頭言に先づ國富翁閣へ、中村杏堂氏の國際經濟戰の序幕その他飯島土外史から新アジア主義へ、廣田弘毅論、國境協定問題、金融界の動向、三井銀行筋の本部連絡を語る、敎界展望、說苑に關西人物觀、中京の投產業關西人物論等々一部金參十錢發行實業公論社

滿洲讀者優待
三省堂・同文館・四六書院
名著短期大特賣
十月二十日より十一月七日まで
見よ!この偉容!この壯擧!
全讀者諸氏に告ぐ!!
我が圖書出版界に於ては今秋十一月を期して圖書祭を催し、文化の進運に聊かなりとも寄與する所あらんとしてゐる。惟ふにこれ非常時に際して寔に有意義なる企である事は信じて疑はざる所である。此の秋に當り三省堂、同文館、四六書院の三出版書肆は率先合同し、茲に之に先立つて名著の大特賣を敢行するは偏に平素御支援を戴く讀者各位に對する報恩の一端に外ならない。下段列記の圖書は孰れも名著として內地に好評を博せしもの、十月廿日より十一月七日までの短期間、半價又はそれ以下の特價を以て提供し、〆切期限以後は絕對に原定價に復するものである。
乞ふ、二百數十點の中より必ず數種以上の良書を選びて貴下の書架に加へられん事を!!
好機再び來らず!
各地有名書店にあり
即刻實物御覽の上御求め下さい!!
◎三省堂發行◎
書名　著譯者　定價　特價
辭書
三省堂英和大辭典　三省堂編輯所編　三・五〇　二・五〇
新コンサイス英和辭典(大型版)　〃　二・五〇　一・八〇
模範國漢文辭典　〃　一・五〇　・七五
常用漢字の字引　〃　・五〇　・二五
法律
學生用六法　憲法　三省堂編輯所編　・五〇　・一〇
〃　民法(總則物權債權)　〃　・五〇　・一〇
〃　民法(親族相續)　〃　・五〇　・一〇
〃　商法　〃　・五〇　・一〇
〃　刑法　〃　・三五　・一〇
〃　民事訴訟法　〃　・八〇　・一〇
〃　刑事訴訟法　〃　・五〇　・一〇
會社法要論 上　間運吉著　三・八〇　一・六五
株主の權利と義務　〃　一・五〇　・七五
株主總會論　〃　二・八〇　一・四〇
破産豫防 和議の話　〃　・五〇　・二五
工場災害扶助論(工場扶助法令解說)　矢野兼三著　一・八〇　・九〇
宗教・哲學・社會
社會倫理學概說　杉森孝次郎著　二・〇〇　一・〇〇
皇道の大旆を飜へす　曾根朝起著　・二五　・一三
佛教聖典　南條文雄・前田慧雲著　二・三〇　一・一五
教育
誤解され易き漢文特殊語法の研究　諸橋轍次校閲 西村司俊著　二・〇〇　一・〇〇
尋常小學算術の指導と論理(第五學年用)　郡司宗雄・高橋久五郎著　・九〇　・四五
〃(第六學年用)　〃　・九〇　・四五
高等小學新算術書指導の實際　湯川征吉・福本重次郎著　一・八〇　・九〇
圖畫の鑑賞教育　小堺宇市著　二・三〇　一・一五
粘土細工と趣味の製陶　黒川粂次郎著　二・〇〇　一・〇〇
女學校を卒へて　小山文太郎著　一・二〇　・六〇
小學校に於ける職業指導の實際　下川兵次郎著　一・五〇　・七五
小學校職業指導教材解說　東京市職業指導研究會編　四・〇〇　二・〇〇
地理・歷史・傳記
蒙古を新らしく觀る　石塚忠著　・五〇　・二五
支那外交通史　鹽田文三著　三・〇〇　一・五〇
巨人を語る　清澤冽著　一・二〇　・六〇
法然　中里介山著　一・五〇　・七五
フォード　清澤冽著　一・五〇　・七五
ハイネ　高橋健二著　一・五〇　・七五
トルストイ　昇曙夢著　一・五〇　・七五
ペートル　米川正夫著　一・五〇　・七五
隨筆・文藝
遺稿隨感錄　濱口雄幸著　一・〇〇　・三五
ロシヤ文學思潮　米川正夫著　二・〇〇　一・〇〇
ブレイク論稿　山宮允著　三・三〇　一・六五
藝術學汎論　島村民藏著　二・〇〇　一・〇〇
紙魚文學　山口剛著　二・三〇　一・一五
歐羅巴文學研究 浪漫思潮(發生的研究)　早大歐羅巴文學研究會編　一・八〇　・九〇
〃 浪漫思潮(現象的研究)　〃　二・四〇　一・二〇
〃 現實主義(理論的研究)　〃　一・五〇　・七五
〃 現實主義(實相的研究)　〃　一・六〇　・八〇
現代英國文藝印象記　宮島新三郎著　一・六〇　・八〇
鳥　內田清之助・金井紫雲著　二・五〇　一・二五
運動
スポーツを語る　鳩山一郎著　・五〇　・二五
スポーツ叢書 野球 私の野球　腰本壽著　二・〇〇
野球監督の心裏　岡田源三郎著　一・二〇　二冊一組 一・五〇
早慶野球戰史　廣瀨謙三著　一・〇〇　・五〇
競走と練習 百米十五年　谷三三五著　一・二〇　・六〇
音樂
戰ふまで　人見絹枝著　一・〇〇　・五〇
新鐵道唱歌　鐵道省編
第一輯 東海道線
第二輯 山陽線付四國めぐり
第三輯 九州線
第四輯 東北、常磐線、房總めぐり
第五輯 高崎、信越、中央線
第六輯 北陸、信越、羽越線
第七輯 山陰線
第八輯 關西線
第九輯 奧羽線
第十輯 北海道線
十冊一組
三省堂常識講座(クロースシリーズ)
染織物の常識　西田博太郎著
最近の寫眞術　鎌田彌壽治著
歐米美術工藝小觀　豐泉益三著
漆とその工藝的應用　澤口悟一著
天平工藝の研究　六角紫水著
血壓と動脈硬化　上條秀介著
淋・疾の話　荻原省三著
乳兒の榮養方法と小兒の便　內村良二著
スポーツと衛生　小笠原道生著
胃潰瘍の話　平野啓司著
中耳炎の話　石井正著
扁桃腺の話　高木愼著
肛門病の話　石井吉五郎著
胃腸病の話　吾妻俊夫著
法醫學の話　黒田啓次著
むしばの話　柴田信著
指紋の話　芥川信著
最近のソヴェートロシヤ　昇曙夢著
支那勞農階級の生活　後藤朝太郎著
素質型と其の心理學的診斷　內田勇三郎著
笑の觀察　廣瀨哲士著
三民主義　岡部三郎著
大衆文學とジャーナリズム　木村毅著
ジャズ音樂の話　鹽入龜輔著
支那の社會組織　西山榮久著
トーキー　門倉則之著
石油の常識　小林久平著
人造絹糸とセルロイド　厚木勝基著
自動車の話　三木吉平著
硝子の知識　難波元弘著
電送寫眞　丹羽保次郎著
高層建築　岸田日出刀著
都市の交通と地下鐵道　野坂相如著
水力の利用と水力タービン　宮城音五郎著
フォードシステム　荒木東一郎著
さびない鐵と鋼　加瀨勉著
性と遺傳　松田秀雄著
海苔と昆布　殖田三郎著
朝顏の話　今井喜孝著
相對性原理の話　石原純著
彗星の話　神田茂著
藥草と和漢藥　刈米達夫著
流星と隕石　神田清著
天然色寫眞　鎌田彌壽治著
日本の酒　佐藤壽衞著
森林と社會　鏑木德二著
農村の行方　小野武夫著
臺所の設計と設備　櫻井省吾著
小住宅の洋風裝飾　山本秀太郎著
着物の流行と織物　鹿島英二著
近代生活の家と家具と裝飾　木檜恕一著
魚の味と選み方　木村金太郎著
洋食の作法　小山茂著
新しい小賣商店經營法　清水正巳著
廣告ビラと商店廣告　〃
賣上本位の陳列裝飾　中里研三著
電氣サイン及看板照明　田坂粂夫著
飾窓の照明法　關重廣著
◎同文館發行◎
航空母艦　中島武著　・三〇　・一〇
飛行機の話　木村秀政著　・三〇　・一〇
小銃と火砲　山縣保二郎著　・二五　・一〇
潛水艦の話　海軍協會編　・二五　・一〇
露地で出來る趣味の園藝　野崎信夫著　・三〇　・一〇
溫室園藝の話　加藤光治著　・二五　・一〇
毒瓦斯と其の防禦　眞作秋吉著　・二五　・一〇
便所の設計と設備　大澤一郎著　・二五　・一〇
經濟及商業
新自由主義　上田貞次郎著　二・三〇　一・一五
日本經濟史の研究　內田銀藏著　八・五〇　四・二五
經濟學說の相對性　猪谷善一著　二・八〇　一・四〇
增訂中世歐洲經濟史　瀧本誠一著　二・五〇　一・二五
ギード消費組合論　久我貞三郎著　三・二〇　一・六〇
リーフマン經濟學原論　宮田喜代藏著　二・五〇　一・二五
經濟文陣　出井盛之著　二・五〇　一・二五
企業形態論　增地・槇原共著　二・八〇　一・四〇
株式相場物語　丹羽豐著　一・三〇　・六五
國際經濟政策　生島廣治郎著　二・八〇　一・四〇
事業統制論　上野陽一著　一・八〇　・九〇
社會改造と企業　上田貞次郎著　三・二〇　一・六〇
和蘭夜話　幸田成友著　二・八〇　一・四〇
水力タービン理論構造及び設計　小野信雄著　五・五〇　二・七五
社會・思想
社會思想家としてのジョン・スチュアート・ミル　大泉行雄著　一・八〇　・九〇
應用社會學十講　建部遯吾著　一・六〇　・八〇
滅びゆく階級　森本厚吉著　二・八〇　一・四〇
國體觀念の研究　池岡直孝著　一・九〇　・九五
無產階級運動と資本主義　北澤新次郎著　二・二〇　一・一〇
人種問題　赤神良讓著　二・五〇　一・二五
食糧問題　建部遯吾著　二・五〇　一・二五
植民問題　綾川武治著　二・五〇　一・二五
平和問題　山內雄太郎著　二・五〇　一・二五
現代文明と思想批判　建部遯吾著　三・二〇　一・六〇
現代思潮大觀　同文館編輯所編　三・五〇　一・七五
國民主義と國際主義　竹林熊彥著　二・五〇　一・二五
兒童の社會問題　增田抱村著　一・五〇　・七五
職業指導　前田鑑一郎著　一・六〇　・八〇
青年と語る　池園哲太郎著　一・九〇　・九五
燕吳載筆　那波利貞著　三・八〇　一・九〇
性の原理　下田次郎著　二・〇〇　一・〇〇
生長する愛の生活　森本厚吉著　二・二〇　一・一〇
社會主義文化論　金子弘著　・六〇　・三〇
宗教問題及び神社行政　建部遯吾著　二・五〇　一・二五
教育・宗教
現代歐米教育大觀　澤柳、小西、長田、下村、伊藤著　四・八〇　二・四〇
最新教育學大全 上下　谷本富著　七・六〇　三・八〇
新教育の樹立へ　原田實著　一・五〇　・七五
手工教育學原論　鈴木定次著　五・五〇　二・七五
時勢の要求實力の陶冶 算術教授の主張と實際　山本孫一著　二・三〇　一・一五
知能の本質　大伴茂著　二・五〇　一・二五
生活を教育にまで　志垣寛著　一・六〇　・八〇
適性考査法要領　增田幸一著　二・三〇　一・一五
丁抹國民高等學校の研究　野田義夫著　二・〇〇　一・〇〇
宗教學論集　帝國大學宗教研究會編　七・八〇　三・九〇
新商人道　有馬祐政著　・八〇　・四〇
商業文要訣　〃　・八〇　・四〇
グループ式譯し方　浦口文治著　一・八〇　・九〇
家庭
美容衛生　岡田道一著　一・五〇　・七五
乳兒の保護　三田谷啓著　二・五〇　一・二五
日本模範童話選集　長沼依山著　一・八〇　・九〇
童謠と童心藝術　野口雨情著　一・八〇　・九〇
◎四六書院發行◎
文藝・娛樂
麻雀競技法とその祕訣　林茂光著　一・五〇　・六五
舞臺裝置者の手帖　吉田謙吉著　三・五〇　一・七五
歌劇大通　伊庭孝著　一・二〇　・三〇
戲曲集 女人哀詞　山本有三著　二・五〇　・五〇
喜劇集 昨今橫濱異聞　岸田國士著　二・二〇　・五〇
山岳短篇小說集 三人と死　坂部護郎著　・七〇　・三〇
樂聖をめぐる　藤木義輔著　一・二〇　・三〇
國際プロレタリヤ文學選集
阿Q正傳　林守仁著　・三五　・一〇
蜂起　歐佐起著　・三五　・一〇
銃殺されて生きてた男　アンリ・バルビュス著 小牧近江譯　・三五　・一〇
オデッサ　P・ローラン著　・三五　・一〇
スパイ跳梁　オルシャンスキイ 濱野修譯　・三五　・一〇
將軍はベッドで死ぬ　ハリソン著 前田河廣一郎譯　・三五　・一〇
革命の孃　マイケルゴールド著 阪井德三譯　・三五　・一〇
媾和とパン　エルンストグレーザー 青野季吉譯　・三五　・一〇
N&K機械工場　ウイリー・ブレーデル 柴田勇一譯　・三五　・一〇
新でかめろん叢書
風變りな人々　丸木砂土著　・八〇　・二〇
山、都會、スキー　石川欣一著　・八〇　・二〇
女五人の謎　松本泰著　・八〇　・二〇
ハリウッドガアル　森岩雄著　・八〇　・二〇
近代愛戀帖　十一谷義三郎著　・八〇　・二〇
肥滿漢の嘆き　高橋邦太郎著　・八〇　・二〇
通叢書
スポーツ通　廣瀨謙三著　・七〇　・二〇
野球通　橋戶頑鐵著　・七〇　・二〇
國技角力通　三木愛花著　・七〇　・二〇
新劇通　水木京太著　・七〇　・二〇
歌舞伎通　伊原青々園著　・七〇　・二〇
映畫通　立花高四郎著
トーキー通　〃
をどり通　小寺融吉著
ダンス通　坪內士行著
俳優通　濱村米藏・川尻清潭著
藝妓通　花園歌子著
日本音樂通　田邊尚雄著
日本俗曲通　中內蝶二著
謠曲と能樂通　橫井春野著
西洋料理通　秋山德藏著
支那料理通　後藤朝太郎著
日本料理通
鰻通　入江幹藏著
天麩羅通　野村雄次郎著
蕎麥通　村瀨忠太郎著
すし通　永瀨牙之輔著
酒通　鈴木氏亨著
菓子通　三好右京著
喫茶とケーキ通　門倉國輝著
煙草通　石川欣一著
洋裝通　マス・ケート著
探偵小說通　松本泰著
麻雀通　川崎備寬著
古今年中行事通　相馬直胤著
古今いかもの通　河原萬吉著
洋畫通　中川紀元著
日本畫通　橫川三果著
園藝通　烏丸光大著
菊通　中山由三郎・丸山雄二著
古書通　河原萬吉著
政黨通　來間恭著
犬通
果物通　齋藤義政著